

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372200927		
法人名	有限会社 かたやま		
事業所名	グループホーム ひなた (2ユニット)		
所在地	赤磐市 殿谷 32 - 1		
自己評価作成日	平成22年02月05日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3372200927&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3372200927&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成22年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切にし、その方の性格や生活リズムを把握し、その人らしいふつうの生活をしていただける事を大切にしている。私たちが、いつもそばにいます。認知症になっても、そうきましたかと笑顔で受け入れられ、ひなたぼっこをしているような穏やかな気持ちでいることを願いながら過ごしていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立して6年目のホームを見て、本部長は「職員が自分なりにケアやサービスの業務をこなしてくれ、利用者の思いや行動を中心にして利用者本位のケアをしてくれるようになった」と言い、2人の管理者と共に利用者が安心して暮らせるホームを目指している。しかし、利用者の重度化は進み、病院や特養でも受け入れられない生命維持を困難にしている利用者を何とか人間回復させ、今は元気で過ごしている人もいる。提携医の先生も「私が年をとったらここに来たい」家族からは「ここに来るのが一番の楽しみ」と言って貰っている。「年老いてもゆっくりこのホームで過ごせますよ」と笑顔と元気さで迎えてくれる職員達である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有して、実践につなげていると思っている。日々の介護につなげる工夫として、独自の様式をつくり、ケアプランに直接取り入れ確認できるよう取り組み中。	理念は事務所に掲示し、毎日目を通して業務につき、日々の支援に理念を反映させよう、利用者の傍に居てしっかり話を聞こうと、何時も職員に伝えている。更に一步踏み込んで、その実践に向けて、理念をプランに繋げる方法を模索中である。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	声をかけてもらい参加が定着の運動会、こちらから広報機関紙等で知った行事、地域の清掃など、入居者の無理のない範囲で楽しみながら参加している。参加を重ねることが日常的な交流につながると思う。	地域の夏祭りや健康体操教室等、地域行事に参加し幼稚園との交流も定着した。代表者が地域住民なので近所の方が花を差し入れてくれたり、野菜の苗を持って来てホームの畑への植え付け指導をしてくれる等、日常的な付き合いの基盤がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今、可能なことの一つとしては、運営推進会議でホームのエピソード・よい事もつらいことも合わせ伝えている。今後、何かの形で地域の人々に向けて発信したい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	回を重ねるごとに、貴重なご意見、また違った角度から認知症の質問を受けます。今年はこの会議報告を基に中断されていた新聞発行し、活かされた取り組みにしたい。	民生委員・市議会議員・近所の人・利用者・家族・幼稚園長・区長・駐在所巡査・地域包括支援センター職員等が出席して、2ヶ月に1回運営推進会議を実施している。地域行事の紹介を受け、音楽祭に参加する等、会議開催効果も上がっている。	他の病院や施設で匙を投げられた人が「最後は“ひなた”しかない」と言われ、このホームではあらゆる手段を講じて生き続けている実践をしている。そして医師や家族から絶賛の言葉をもって人間回復をさせている事例を運営推進会議やその他の機会にぜひ発表してもらいたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の方には実情など報告し、忙しい中、相談・アドバイスをいただいている。市の方には、わからないことあれば、すぐに担当者に直接相談教えていただいている。	何かあればその都度市町村担当者に相談して、指導・助言を受けている。ホームの運営推進会議には、地域包括支援センター職員が市町村担当者のどちらかが出席し、互いに情報交換しながら連携を図っている。	グループホームの職員はあらゆる手段を講じて、愛情あるケアによって命を救い人間回復させて家族からも喜ばれている。市の職員はこのような実態を把握してもらってグループホームの存在価値を認識すると共に福祉行政の中に生かしてもらいたい。(外部評価機関意見)
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ハンドブックを身近に置き、理解に努めている。玄関施錠はしていない。	身体拘束をしないケアのマニュアルを作成し、市のハンドブックも活用しながら、職員ミーティングでもよく話し合っている。「座って」とか「駄目よ」等、行動を制限する声かけをしないよう具体的に伝えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待など、あり得ないことと理解していますが、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会があまりないので、研修等ありましたら参加するようにしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に学ぶに留まっています。専門職として知っておくべきことに関して、今後勉強会に取り入れたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族には、十分説明をしている。また、疑問等で、十分な説明ができないことは、調べて後日、説明させていただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に意見・要望をうかがえるようにはされているが、それらを表せる機会を設けておらず、今後どのようにするか方法をつくりたい。	日常の様子を伝える個別の便りを毎月家族に送付し、面会時の話し合いや電話連絡で相談し合っている。運営推進会議に家族も出席しているのので、公の発言の場も提供出来ている。会議録には家族の活発な意見の記載があった。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、目指している介護と同じにし、日々の介護の中、またミーティング・職員代表者会議等で意見交換し、スタッフにも理解、協力を得ようと努力しています。	毎月定期的に職員ミーティングをして、気掛かりを相談し、情報の共有を図っている。看護師資格保持者の代表は毎日ホームに来て利用者と親しく関わり、現場を熟知し業務を手助けして全面的にサポートしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面は、諸手当、準職制度を取り入れ勤務体制も職員の希望、緊急時にも対応できるよう努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合った研修があれば、受ける機会を確保し、資格取得、能力向上のための期間、研修費用において協力に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者も含め可能な限り、研修、交流会に参加している。また、今年は地域の同業者と交流を深め、行き来し合いながらお互いのサービスの質の向上を図りたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居事前面接で、不安なこと困っていることなど、改めてご本人・家族に十分な気持ちをうかがうようにしている。また、入居当日は、なるべく事前面接を行った者が夜勤入りし、馴染みの関係づくりをする。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少しでもたくさん話していただけるよう、関係づくりにつとめている。そして、入居当初は様子の報告・連絡を密にし、よりよい関係となるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・家族の思い、気持ちを組み、入居前の生活の中で大切にしていたことは続けられ、今、必要なことは何か、共に考えながらなじみの生活が出来るようつとめている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をしている。常に自分に置き換えて「自分だったら…」と思う気持ちで接する。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ふだんから面会に来られる家族に、職員にも様子等を伝えてもらう。または、家族に食事介助・水分介助なども方法を伝えながら無理のない程度でしていただいている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会があった場合は、しばらくその方の話題をするようにしている。面会事態は忘れても、その方の馴染みの話題される事を大切にする。	近隣出身の利用者が殆どなので、利用者同士が知り合いだったり、慰問に来たボランティアの人と顔見知りだったり、近所の人と昔住んでいた地名の話で盛り上がる等、あちこちで懐かしい出会いがある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の認知症重度化に伴い、利用者同士が自然な形で関われなくなっているが、職員が間に入りコミュニケーションに努める。また、安全確認のもと、おやつ介助という役割の関わりをしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてもしばらく、家族に連絡をしたり、行き先に、面会に出かけたりしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の気持ちや希望を伝えられる方が少なく、今、大切にしていることは、ご本人の言葉をうのみせず、その言葉の奥の言葉を職員と検討している。	両ユニットの利用者の身体能力に格差があるが、出来る人にはどの服を着るか選んでもらったり、トイレや入浴を誘う時も、どうしたいか思いや意向を聞きながら、本人の気持ちを優先した支援に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの情報をもとに、出来る限り日常の会話の中で、ご自分の暮らしを聞くようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態によって体調に、すぐに変化みられ、特に気をつけて把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人ひとりの意見、介護のアイデア・工夫はミーティングや日常の介護から出ているが、様式・計画検討中で不十分。今後の課題である	本人・家族から管理者(計画作成担当者)がよく話を聞き、情報を職員に伝え、介護計画を作成し、全職員で検証してプランに反映している。独自の介護計画様式を工夫して取り組んでいた。	人間(職員)が人間(利用者)を支援していると言う本質を介護計画の中に生かしていこうとする計画の組立て方、記録の方法等の改良を行っている。是非この成果を期待して見守りたい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の意見や工夫で、よりよい記録と実践につなげられるよう、今、様式取り組み中。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状態や気持ちの理解に努めながら、今、無理のない自然にできる可能なことは何かを考え支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後は、さらに地域の方々との関わりを持ち、入居者の体調をつねに意識しながら、少しでも豊かな暮らしが出来るよう支援したい。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ほぼご本人・家族の希望とし、定期受診等もなるべく、家族も付き添い、今後起こりうる状態の質問や理解を深められるよう関係を築いている。	出来る人には家族に受診をお願いしているが、そうでない人はホームでも受診介助をしているので、利用者の主治医との関係も構築出来ている。何かあれば対応して往診にも来てくれるホームの協力医も確保出来ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、突然の変化もあり、日常の状態の連絡を常に行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	認知症の方のその症状を理解していただいた上で、治療していただけるよう情報交換につとめている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	過去の経験をもとに、なるべく早い段階で話し合い、家族の気持ち・事業所として出来ることの話し合いや説明の時間を設けている。また、分からないことについては、関係機関に質問し、支援できるよう取り組んでいる。	今まで一緒に居たのだから、出来たら最期までの気持ち強いので、本人・家族が希望し、医療的な問題もなく、主治医や家族の協力も得られるならば、職員と話し合いながら、出来る限りの支援をしたいと考えている。ターミナル支援の経験もある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防・救急訓練で定期的に行われている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防・救急訓練を行うと共に、近所の住民との協力をいただけるようにしている。	緊急時のマニュアルや連絡網を作成し、利用者也参加して、昼と夜を想定した避難訓練を年2回実施した。消防署の協力を得て、消防士の講話を聞き、消火器の使用方の訓練も行っている。	近所の人には何かあったらお願いしますと声を掛けているが、今後は避難訓練に参加依頼を検討し、消防署や消防団の方に運営推進会議出席をお願いしたいと考えている。とても良い事だと思うので是非実現してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみをこめた会話の中にも常に尊敬の気持ちを持って声かけをしている。	野菜炒めの中のスライスした人参を選び分けて残す人がいた。職員はそれを咎めず「他の野菜は何でも食べれとるんじゃから、ええがなー」と声を掛け、笑顔になるシーンがあった。その日に合わせた対応が来ている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の信頼関係は、時間をかけても、自己決定できる支援と思われる。常に心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今、すべての入居者のかたが職員側の決まりや都合にならないよう、取り組み中。個々の生活リズムを大切に、穏やかに暮らしていただけるように職員間で工夫模索中。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みを大切に、家族の協力を得ながら支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年々、食事形態が変わり、普通食の方が少なくなっている。その中で、好みを大切に、少しでも食欲につながるよう工夫している。	きざみ・とろみ・お粥等、その人の状態に合わせて食べやすい様支援していた。比較的軽度の人には、野菜を切って貰ったり、テーブルやお盆を拭いて貰う等、出来る家事の手伝いをお願いして食事準備を楽しんでいた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	すべての職員がその方の適量を把握し、常に状態の申し送りの支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、習慣を活かし、さりげなくトイレ誘導し自立の方は維持を、そうでない方も出来る範囲で自立に向けた声かけに努めている。	朝食にヨーグルトや乳製品を取り入れる等工夫して、出来るだけ薬に頼らず、自然な排泄を支援している。排泄パターンを把握して、タイミングを見て声を掛け、トイレ誘導していた。トイレから浴室が連結した造りなので、失禁時も安心だ。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調にも精神的にも、排泄は毎日の生活に重要で、個々のパターンを組みながら、食べ物の工夫もし取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望やタイミングに合わせ、ご本人の気持ちになるべく添うよう曜日は概ねで決められてはいない。	お風呂に行こうと声を掛けると拒否するが、ちょっと来てくれる？と誘うとスムーズに入浴してくれる等、利用者の癖を理解した対応で、入浴拒否の人が改善した事例もある。本人の希望を聞きながら体調に問題がなければ、2日に1度は入浴して貰う様支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間の流れは、ご本人の意思を尊重し、その方らしく、暮らしやすいリズムに合わせてられるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の把握、臨時薬の把握、またその時におこりうる症状について、医師薬剤師からの指示をおおぎ、確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のレベルに合わせ、喜びある生活の支援に努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今は、ご本人の希望を把握することが難しく、こちらから提案した外出に、希望されるか、されないかにとどまっている。	初詣や花見等季節の行楽以外に、幼稚園の運動会や祭り等、地域行事にも参加している。広大な敷地を有する恵まれた環境を活かして、天気が良ければ畑に野菜を取りに行ったり、周辺を散歩する等、気軽に外気を楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今は、支援すれば理解できる方がほとんどおられず、ご本人が持たがらない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届けば、双方の了解のもと、読み聞かせ支援している。夜間遅くない限り、電話はいつでも可能で支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れ、日常生活で掲示物を一緒にゆっくり、作る、飾る。	高い天井の上に明り取りの窓があり、木の温か味溢れる拘りの造りで、食卓以外にテレビ横の長ソファや畳スペース等、居場所も多い。手作りカレンダーや塗り絵作品等を飾り、親しみ易い雰囲気が漂っていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり、思い思いに過ごしていただいている。その中で、職員はつかず離れずの距離で事故のないよう見守っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族に必ず、新しい生活をしていただく中で、使い慣れたもの・なじみのものを持参していただく協力を伝えている。	家族の写真や手紙・塗り絵作品等を壁に貼ったり、花やお気に入りのマスコットを飾る人や、イスやテレビ等を持ち込む人も居て、その人らしい居室になっていた。「あんた空がきれいよ。見てごらん」窓からの眺めも良く明るい感じがする。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの生活の動線を把握し、工夫し安全に努めている。		